

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公表番号】特表 2003-510684 (P2003-510684A)

【公表日】平成 15 年 3 月 18 日 (2003.3.18)

【出願番号】特願 2001-525524 (P2001-525524)

【国際特許分類】

**G 0 6 F 21/22 (2006.01)**

**G 0 6 F 11/10 (2006.01)**

【F I】

G 0 6 F 9/06 6 6 0 J

G 0 6 F 11/10 3 1 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 18 日 (2007.9.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 サブプログラムの呼出し時におけるプログラムの実行を保護するための、呼び出されたプログラムが、呼出しプログラムから直接または間接的に渡されるデータのチェックを、前記呼び出されたプログラムの実行前または実行中に行う方法において：

- 前記呼出しプログラムが渡されるべきパラメータについて第 1 のチェックサムをつくるステップ (ステップ 2) と；
- 前記第 1 のチェックサムが専用に用意されたメモリ領域に格納されるステップと；
- 前記呼び出されたプログラムが、前記呼び出されたプログラムの実行の前に、受け取った前記パラメータについて第 2 のチェックサムをつくり (ステップ 5)、前記第 2 のチェックサムと前記第 1 のチェックサムとが一致するか否かについてチェックするステップ (ステップ 6) と；
- 前記第 1 のチェックサムと前記第 2 のチェックサムとが一致しない場合には、前記プログラムを終了させるか (ステップ 7)、またはエラーメッセージを出力するステップと；

を含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】 サブプログラムの呼出し時におけるプログラムの実行を保護するための、呼び出されたプログラムが、呼出しプログラムから直接または間接的に渡されるデータのチェックを、前記呼び出されたプログラムの実行前または実行中に行う方法において、サブプログラムの呼出し時に前記サブプログラムの実行に必要なクロックサイクル数をカウントするタイマーをスタートさせ (ステップ 22)、前記クロックサイクル数があらかじめ設定されたクロックサイクル数をこえても前記サブプログラムが終了しなければ (ステップ 26)、前記プログラムを終了させることを特徴とする方法。

【請求項 3】 前記第 1 のチェックサムを格納するための前記メモリ領域が R A M またはレジスタ領域であることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】 呼出し関数のリターンアドレスがテーブルに入れられ、前記呼び出されたプログラムが、前記テーブルに基づいて前記リターンアドレスの存在をチェックすることにより (ステップ 13)、前記呼出しプログラムにより報告されるリターンアドレスをチェックすることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 5】 前記タイマーの値が一定のあらかじめ定められたポイントで読み出され（ステップ 24）、同様にあらかじめ定められた中間値と比較されて（ステップ 25）、前記タイマー値が前記あらかじめ定められた中間値をこえた場合に、前記プログラムを終了させる（ステップ 26）ことを特徴とする請求項 2 または 4 のいずれか 1 項記載の方法。